高崎市文化財調査報告書第 252 集

下之城・村東遺跡 3

－共同宅地建設に伴う埋蔵文化財発掘調査－

2009

高崎市教育委員会

例　言

1．本書は、共同宅地建設に伴う下之城・村東遺跡第３次の埋蔵文化財調査報告書である。

2．本遺跡は、群馬県高崎市下之城町 522 番地 12、13 に所在している。

3．調査は高崎市教育委員会が主体となって実施し、調査業務は委託を受けた有限会社毛野考古学研究所が行った。調査担当者は、吉田有里、有山径世である。

4．発掘調査および整理作業は、平成 21 年 8 月 24 日～平成 21 年 12 月 25 日の期間で実施した。

5．本遺跡は、高崎市教育委員会の遺跡番号で 453 である。

6．本書の執筆については、Ⅰを田口一郎（高崎市教育委員会）、それ以外を有山が行った。

7．本書に関わる資料は、一括して高崎市教育委員会が保管している。

8．発掘調査・整理作業に携わった方々は以下の通りである。（順不同・敬称略）

【発掘調査】

井口ヒロ子　狩野友好　桜井れい　竹生正明　森山恵子　三友昭彦

【整理調査】

瀬尾則子　伴場りく

9．発掘調査の実施から報告書の刊行に至る過程で下記の機関・諸氏のご協力を賜った。記して感謝申し上げます。（順不同・敬称略）

大東建託㈱　㈱エイ・テック　山下工業㈱　㈱スミヤ測量　カネコハウス㈱

凡　例

1．挿図中の北方位は座標北を、断面水準線数値は海抜標高を示す。座標は世界測地系を用いた。

2．遺構の縮尺は、平面図：1/200、断面図：1/40 である。

3．遺構の色調観察は『新版　標準土色帖』（農林水産技術会議事務局　財団法人日本色彩研究所監修 2006）に従っている。

4．本書掲載の第１図は高崎市発行 1/2,500「高崎市都市計画基本図」、第２図は国土交通省国土地理院発行 1/25,000「高崎」を使用した。

目　次

例言・凡例
目次・図版目次・写真図版目次
Ⅰ　調査に至る経緯 …… 1
Ⅱ　地理的・歴史的環境 …… 2
Ⅲ　調査の方法と経過 …… 3
Ⅳ　基本層序 …… 3
Ⅴ　検出された遺構と遺物 …… 4
　1．Ａｓ－Ｂ層下水田 …… 4
　2．溝 …… 4
　3．土坑・ピット …… 4
Ⅵ　まとめ …… 6
写真図版
抄録・奥付

図版目次

第１図　調査区域図 …… 1
第２図　遺跡の位置と周辺の遺跡 …… 2
第３図　基本層序 …… 3
第４図　全体図 …… 5
第５図　土層断面図（１） …… 5
第６図　土層断面図（２） …… 6

写真図版目次

ＰＬ．１　遺跡遠景
　　調査区全景
ＰＬ．２　Ａｓ－Ｂ層下水田畦畔土層断面
　　Ａｓ－Ｂ層下水田畦畔土層断面
　　１・２号溝全景
ＰＬ．２　２号溝土層断面
　　１号溝・１号土坑土層断面
　　１号土坑全景
　　１・２号ピット全景
　　基本層序

Ⅰ　調査に至る経緯

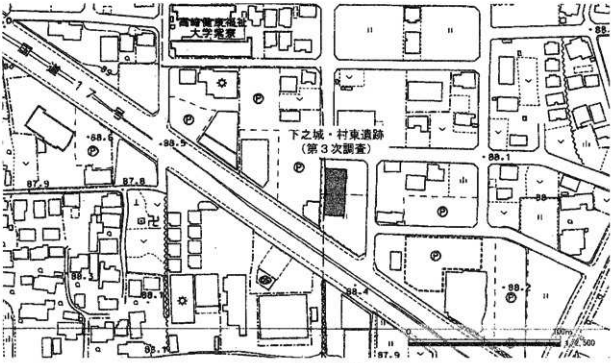
平成20年7月、土地所有者手島契雄氏より高崎市教育委員会（以下市教委）に店舗建設予定地の埋蔵文化財の状況について照会があった。市教委は、該当地周辺で平安時代の水田跡が調査されており、周辺地域にも拡がる可能性が大きいため、試掘調査による確認を行うことと、その結果による工事と埋蔵文化財保護との調整が必要な旨を回答した。

同年7月18日付けで、土地所有者より試掘調査申込書が提出されたのを受けて、市教委は平成20年8月21日に工事予定地の試掘調査を実施し、浅間山の噴火軽石（As－B）に覆われた平安時代の水田遺構を確認した。

この試掘内容と保存協議が必要な旨を、同年7月18日付けで土地所有者に通知した。その後、保存協議の進捗はなかったが、平成21年7月になり開発計画が共同住宅の建設に変更されて改めて照会された。前年の試掘結果と共同住宅の計画により埋蔵文化財保護について事業者と協議を行ったが、建設予定の変更は不可能ということなので、住宅建設予定地の記録保存の発掘調査を行うことで合意した。

発掘調査は、市教委の作成する調査仕様書に基づく指導・監理の下、有限会社毛野考古学研究所に委託して実施することとなり、平成21年8月17日付けで高崎市長・事業者・毛野考古学研究所の三者協定を締結し、さらに協定に基づき平成21年8月19日付けで事業者と毛野考古学研究所の二者で発掘調査委託契約が締結された。

なお、調査開始時において下之城・村東遺跡の調査・報告歴に関する確認が不十分であったため、協定書・契約書共に第2次調査として取り扱っていたが、1984年に第2次調査が実施されていることが確認されたため今回の調査を第3次調査に訂正する。1・2次調査については、工場増設に伴い1983、1984年に調査され、平安時代水田跡や水路、江戸時代の畑等が検出されている。



第1図　調査区域図

Ⅱ　地理的・歴史的環境（第2図）

地理的環境　高崎市は、群馬県のほぼ中央に位置する。高崎市域の地形を概観すると、西部が岩野谷（観音山）丘陵と丘陵縁辺部の扇状地、烏川・碓氷川低地帯、北西部が若田・八幡台地、北部が榛名山南麓に発達する「相馬ヶ原扇状地」、これを南下すると比較的平坦な前橋台地となっている。前橋台地の中央付近には井野川が流れ、流域には段丘と谷底平野からなる井野川低地帯が広がっている。この低地帯を境にした西域を高崎台地という場合が多い。高崎台地は、およそ1.2万年前に堆積した浅間火山起源の前橋泥流により上台が形成され、この上に軽石に富み軟弱な上層の高崎泥流を特徴的に見ることができる。

本遺跡の所在する下之城町はこの高崎台地上に立地する。台地上には、多くの湧水を含めた小河川が網状に南流・東流し、微高地と低湿地とが混在する起伏に富んだ地形が形成されている。本遺跡は、烏川左岸段丘と井野川右岸段丘に挟まれた低台地上に位置し、標高は87m前後である。

歴史的環境　本遺跡の所在する低台地上には、As－B（浅間B軽石：1108年降下）に覆われた水田跡が広範囲に確認されている。これらの水田は一町四方の方格区画、いわゆる「条里型地割」に沿うものが多く、下中居条里遺跡（2）、下之城村北Ⅱ遺跡（3）、下之城条里遺構（4）、下之城村東遺跡（5）、下之城村前Ⅱ遺跡（6）、上中居鳥薬師遺跡（7）、上中居咲地蔵遺跡（8）、上中居荒神Ⅰ遺跡（9）、上中居荒神Ⅱ遺跡（10）、上中居西屋敷Ⅲ遺跡（11）、上中居西屋敷遺跡（12）、双葉町Ⅰ遺跡（13）など、多くの遺跡で検出されている。本遺跡の北約0.5kmには、市の主要な灌漑用水路である「長野堰」から分水した矢中堰が、西約1.1kmには倉賀野堰が流下している。長野堰の流域は、かつては自然河川が存在していたと考えられており、古代から水田開発に利用されてきたものと推測される。集落は、下中居条里遺跡や西浦・吹手西遺跡（16）などで確認されており、微高地上に営まれる傾向が看取できる。

1．下之城・村東遺跡　第3次調査　2．下中居条里遺跡（B下水田、平安生活）　3．下之城村北Ⅱ遺跡（B下水田）　4．下之城条里遺構（B下水田）
5．下之城村東遺跡（B下水田）　6．下之城村前Ⅱ遺跡（B下水田）　7．上中居鳥薬師遺跡（B下水田）　8．上中居咲地蔵遺跡（B下水田）
9．上中居荒神Ⅰ遺跡（B下水田）　10．上中居荒神Ⅱ遺跡（B下水田）　11．上中居西屋敷Ⅲ遺跡（B下水田）　12．上中居西屋敷遺跡（B下水田）
13．双葉町Ⅰ遺跡（B下水田）　14．上佐野堰跡遺跡（B下水田）　15．和田多中遺跡（B下水田）　16．西浦・吹手西遺跡（B下水田、平安生活）

第2図　遺跡の位置と周辺の遺跡

Ⅲ　調査の方法と経過

調査の方法　表土掘削は重機を用いてAs－B一次堆積層上面まで掘り下げた。その後は人力による遺構調査を進めた。As－B層下水田は、堆積する軽石を除去するとAs－B降下直前段階の水田面が現出するため、軽石上位をジョレン、下位の水田面上を移植ゴテを使用して除去した。その他の遺構掘削にあたっては、土層観察用のベルトを設定し、埋没状態や構築状態を確認した。図面・写真による記録は、土層断面・遺物出土状態・完掘状態などの各段階で行った。遺構図は縮尺1/20を基本とし、全体図は1/100で作図した。平面図についてはトータルステーションを用い、断面図は手実測で対応した。写真撮影には、35㎜白黒ネガ・35㎜カラーリバーサルフィルム、デジタルカメラを用いた。航空写真はラジコンヘリコプターを用いて撮影した。調査終了後は重機による埋め戻しを行った。

調査の経過　現地での発掘調査は平成21年8月24日～同年9月11日の間で実施した。

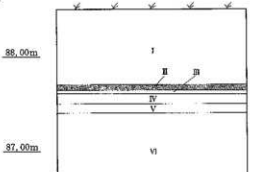
8月期　24日：発掘器材・簡易トイレの搬入。25日：表土掘削を開始する（～27日）。作業員を導入し、As－Bを除去して水田面の検出に努めた。26日：1・2号溝の調査（～28日）。27日：1号土坑の調査。28日：調査区北側の水田面検出作業を終了する。

9月期　1日：GPSによる基準測量。調査区南側の水田面検出作業（～2日）。2日：1・2号ピットの調査。航空写真撮影の準備。4日：航空写真撮影。その後、遺構の個別写真撮影。5日：遺構測量。7日：トレンチを設定し、下面における遺構の有無を確認した。8日：基本層序の掘削および、写真撮影・測量。調査区の埋め戻し。9日：埋め戻し完了。11日：発掘器材の搬収および簡易トイレの撤出を行い、現地における発掘調査を終了した。

Ⅳ　基本層序（第3図、PL．2）

調査区の南側にテストピットを設け、基本層序を確認した。Ⅱ層でAs－B（浅間B軽石：1108年降下）一次堆積層が確認される。現代の土地造成の際に、調査区の大半が攪乱を受けているが、残存部分では1～4㎝の堆積が認められる。層序については以下のとおりである。

Ⅰ．黒　褐　色　土　層：盛土層。しまり・粘性ややあり。
Ⅱ．As－B一次堆積層：下位に鉄分沈着。しまり・粘性なし。
Ⅲ．黒　色　粘　質　土　層：白色粒を少量含む。しまり・粘性強い。平安時代末期の水田耕作土。遺構確認面。
Ⅳ．褐　灰　色　粘　質　土　層：白色粒を少量含む。しまり・粘性強い。水田耕作土。
Ⅴ．灰黄褐色砂質土層：白色微粒子を少量含む。しまり強い。粘性あり。
Ⅵ．にぶい黄褐色砂質土層：φ2～3㎜の小礫を多量含む。しまり強い。粘性あり。
Ⅶ．灰　白　色　砂　質　土　層：φ2～3㎜の小礫と灰白色粘質土の混合土。しまり強い。粘性ややあり。



第3図　基本層序

V　検出された遺構と遺物

1．As－B層下水田（第4・5図、PL．1・2）

残存状況：調査区は約1／2が現代の撹乱により壊されていたが、As－B一次堆積層が残存している部分では、1～4cm程の堆積が認められた。**地形**：水田面は北西から南東へゆるやかに傾斜する。最高位は87.72m、最低位は87.65mである。**畦畔**：南北2条、東西4条が検出された。概ね東西南北に走行し、南北畦畔はN－1～2°－E、東西畦畔はN－91～102°－Eを指す。しかし、東西の畦畔6に関してはN－124°－Eを指し、北西－南東方向に大きく傾いている。幅は、南北畦畔が60～90cm、東西畦畔が40～125cmである。水田面との比高は、南北・東西畦畔ともに3～4cmと低い。東西の畦畔5は幅が130～160cmと広いが、比高は4cmで他と差はない。**区画**：7区画以上と推察されるが、全容が把握できる区画はない。平面形は長方形区画が主体と見られるが、斜方向の畦畔（畦畔6）による変形区画も混在する。**水口**：南北の畦畔3で確認された。一辺の中央よりやや南側に設けられ、幅は29cmである。**水田面の状態**：なだらかで、凹凸はほとんど見られない。人の足跡と思われる痕跡は1～2ヵ所確認されたのみである。水田耕作土は黒色粘質土で、粘性は非常に強い。**水路**：水田に伴う水路として、3・4号溝の2条が検出された。3号溝は畦畔2の東脇を南北方向に並走するが、撹乱により詳細は不明である。幅65cm、水田面からの深さ10cmを測り、断面は皿状を呈する。4号溝は畦畔5の中央を東西方向に直行する。幅40～50cm、畦畔上面からの深さ5cmを測り、断面は皿状を呈する。底面の高低差はほとんどない。**遺物**：出土しなかった。

2．溝

1号溝（第4・5図、PL．2）

位置・重複：調査区北西側に位置し、南側は撹乱に壊される。2号溝・1号土坑と重複し、本溝は2号溝より新しく、1号土坑より古い。**形態**：北西－南東へ直行し、底面の高低差はほとんどない。断面は逆台形状を呈する。**規模**：残存長4.62m、幅50～75cm、深さ12cm。**走行方位**：N－11°－W。**埋没土**：As－A（浅間A軽石：1783年降下）を含む灰黄褐色粘質土を主体とする。**遺物**：近世陶磁器碗・甕、近世瓦の小片がわずかに出土した。

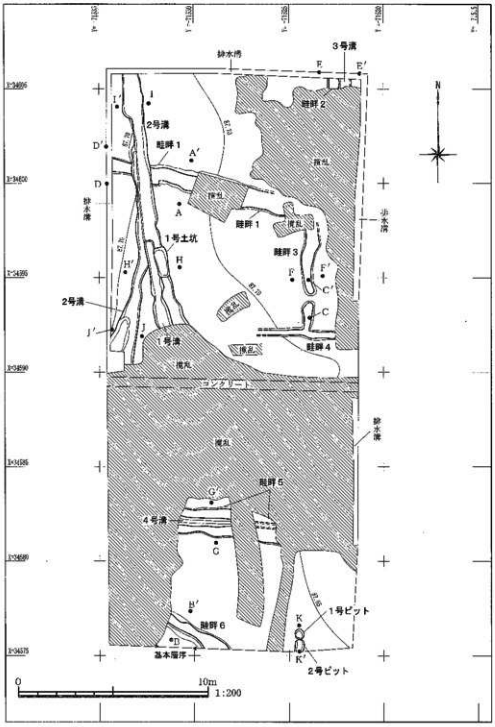
2号溝（第4・5図、PL．2）

位置・重複：調査区北西側に位置し、北側は調査区外、南側は撹乱に壊される。1号溝・1号土坑と重複し、本溝が古い。**形態**：北西－南東へ直行し、南側で南西へ分岐する。底面は南側が若干低い。断面は逆台形状および逆三角形状を呈する。**規模**：残存長13.50m、幅50～110cm、深さ8～14cm。**走行方位**：N－9°－W。**埋没土**：As－Aを含む灰黄褐色砂質土を主体とする。**遺物**：近世陶器碗の小片が1点出土した。

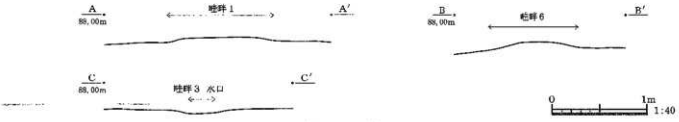
3．土坑・ピット（第4・5図、PL．2）

土坑1基、ピット2基が検出された。1号土坑は、調査区北西側に位置する。1・2号溝と重複し、本土坑が新しい。平面隅丸長方形、断面箱形状を呈する。長径115cm、短径70cm、深さ36cm。埋没土はAs－Aを含む灰褐色粘質土を主体とする。遺物は、下層から獣骨（牛）、上層から近世焙炉の小片が1点出土した。

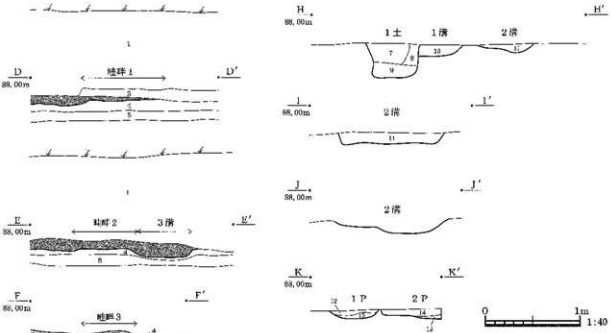
ピットは、調査区南東側に位置する。1号ピットは、平面円形、断面皿状を呈する。長径55cm、短径45cm、深さ8cm。2号ピットは、平面楕円形、断面皿状を呈する。長径65cm以上、短径50cm、深さ5cm。両ピットともに、埋没土はAs－Bを含む暗褐色砂質土を主体とする。遺物は出土しなかった。



第４図　全体図



第５図　土層断面図（１）



As－B層下水田　土層説明

1：黒褐色土層。しまり・粘性ややあり。砂十。
2：灰色砂質土層。As－Bを多量に含む。しまりややあり。粘性弱い。
3：As－B　炭層被覆。下位に部分広がる。しまり・粘性なし。
4：黒色粘質土層。白色粒を少量含む。しまり・粘性強い。水田耕作土。
5：褐灰色粘質土層。白色粒を少量含む。しまり・粘性弱い。水田耕作土。
6：灰褐色砂質土層。白色粒子を少量含む。しまり強い。粘性あり。

1号土坑　土層説明

7：灰黄褐色砂質土層。鉄分沁着。As－Aを多量に含む。しまりあり。粘性ややあり。
8：灰黄褐色粘質土層。As－Aを多量に含む。しまり・粘性あり。
9：灰黄色粘質土層。As－Aを多量に含む。鉄分沁着。こまりややあり。粘質強い。

1号溝　土層説明

10：灰黄褐色粘質土層。As－Aを多量に含む。しまりややあり。粘性低い。

2号溝　土層説明

11：灰黄褐色砂質土層。As－Aを多量に含む。鉄分沁着。しまりあり。粘性ややあり。

1号ピット　土層説明

12：暗褐色砂質土層。As－Bを多量に含む。しまりやや弱い。粘性なし。
13：暗褐色粘質土層。As－Bを多量、褐色粘質土ブロックを少量含む。
　しまりあり。粘性ややあり。

2号ピット　土層説明

14：褐色砂質土層。As－Bを多量、褐色粘質土ブロックを少量含む。
15：褐色砂質。As－Bを多量に含む。しまり・粘性なし。

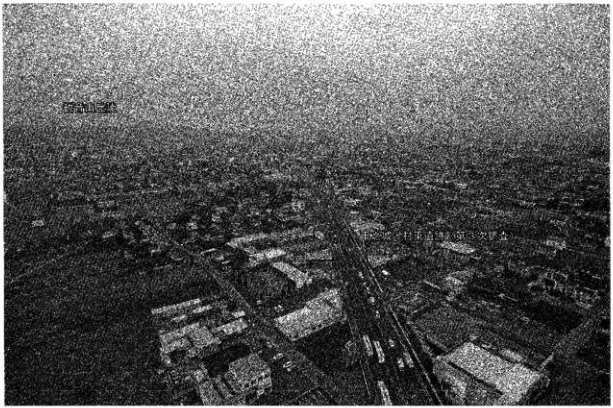
第６図　土層断面図（２）

Ⅵ　まとめ

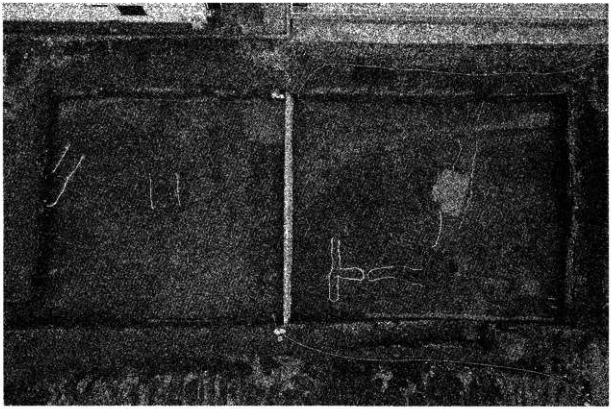
As－B層下の水田には、一町（109 m）四方の方格地割を採用した、いわゆる「条里型地割」が認められる。本遺跡で検出されたAs－B層下水田も、畦畔や溝の走行方位等から条里型地割の可能性が指摘されよう。畦畔は、その幅から小区画を形成する小畦畔と判断されるが、畦畔５に関しては他に比べて幅が広いため、坪境の大畦畔となる可能性もある。水利については、幹線水路から小区画内に給排水する小規模な水路に、畦畔の脇や頂部を走行する３・４号溝が相当すると考えられる。区画内は水口やオーバーフロウ等で水を行き渡らせる構造となろう。水田面は平坦で畦畔が低い状態であった。古代の水田は、耕作されていた田「見作」と耕作されていない田「不作」が、一坪内に混在する状況にあったことが文献史より明らかにされている（高井　2006）。本遺跡の水田は耕作中田に水を溜めるためには畦畔が低いと思われるが、上層の土圧により押し潰された状態である可能性もあり、埋没時に見作・不作どちらの状態であったかは判別できなかった。

引用・参考文献

高崎市教育委員会　1996『下中居条里遺跡』
高崎市市史編さん委員会　2000『新編高崎市史　資料編２　原始古代Ⅱ』
高崎市市史編さん委員会　2003『新編高崎市史　通史編１　原始古代』
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団　1981『下之城条里遺跡の調査』
下之城村遺跡調査会　1983『下之城村遺跡』
高井佳弘　2006　平安時代後期水田耕作の一側面『生涯の考古学』同成社

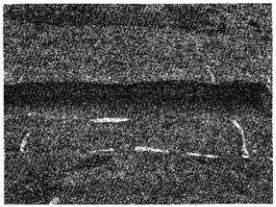


遺跡遠景（南東から）

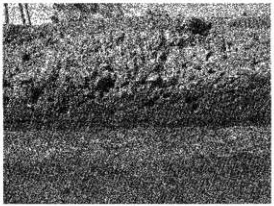


調査区全景（上が西）

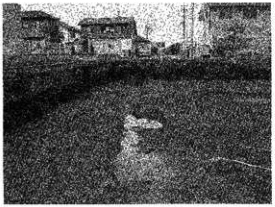
PL. 2



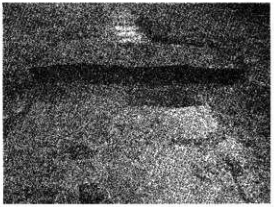
As－B層下水田畦畔土層断面（東から）



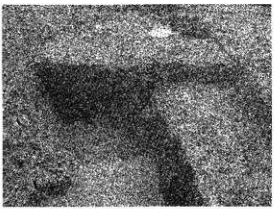
As－B層下水田畦畔土層断面（南から）



1・2号溝全景（南から）

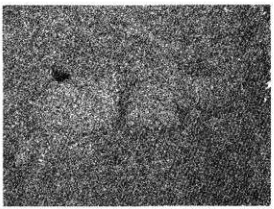


2号溝土層断面（北から）

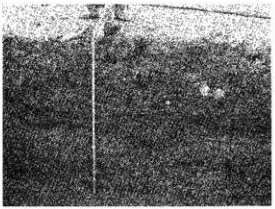


1号溝・1号土坑土層断面（北から）

1号土坑全景（東から）



1・2号ピット全景（西から）



基本層序（北から）

報告書抄録

書名	下之城・村東遺跡3
副書名	共同宅地建設に伴う埋蔵文化財発掘調査
巻次	
シリーズ名	高崎市文化財調査報告書
シリーズ番号	第252集
編著者名	田口一郎　有山径世
編集機関	高崎市教育委員会 〒370-8501　群馬県高崎市高松町35番地1　℡ 027-321-1292
発行機関	高崎市教育委員会
発行年月日	平成21年12月25日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村コード	遺跡番号					
下之城・村東遺跡3	群馬県高崎市下之城町552番地 12、13	102020	453	36° 30′ 88″	139° 03′ 69″	20090824 ～ 20090911	424㎡	共同宅地建設

主な遺構	遺物	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
下之城・村東遺跡3	水田	平安時代	As－B層下水田 （畦畔6条、溝2条）	土師器 須恵器	平安時代末期のAs－B層下水田。
		中・近世	溝　2条 土坑　1基 ピット　2基	陶磁器類 獣骨（牛）	

高崎市文化財調査報告書第252集

下之城・村東遺跡3

―共同宅地建設に伴う埋蔵文化財発掘調査―

平成21年12月23日印刷

平成21年12月25日発行

編　集／高崎市教育委員会

発　行／高崎市教育委員会

印　刷／朝日印刷工業株式会社